

# 平安京右京四条三坊三町跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京右京四条三坊三町跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、仮設校舎設置工事に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

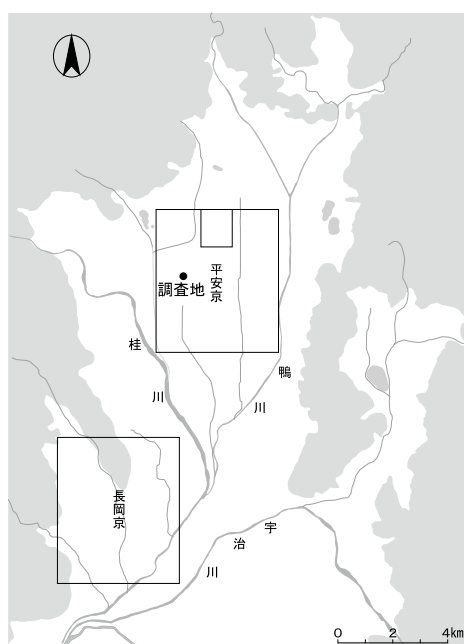
令和元年12月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 平安京跡（京都市番号 18H473）                        |
| 2 調査所在地  | 京都市右京区西院春日町3番地1ほか                         |
| 3 委 託 者  | 京都市 代表者 京都市長 門川大作                         |
| 4 調査期間   | 2019年6月17日～2019年8月9日                      |
| 5 調査面積   | 200㎡                                      |
| 6 調査担当者  | 松吉祐希・岡田麻衣子・布川豊治                           |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。  |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）            |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                            |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。         |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                      |
| 12 遺物番号  | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。                       |
| 13 本書作成  | 松吉祐希                                      |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |

(調査地点図)



# 目 次

|                  |    |
|------------------|----|
| 1. 調査の契機と経過      | 1  |
| 2. 調査地の位置と環境     | 4  |
| (1) 歴史的環境        | 4  |
| (2) 周辺の調査        | 5  |
| 3. 遺 構           | 6  |
| (1) 基本層序         | 6  |
| (2) 遺構の概要        | 6  |
| (3) 平安時代前期・中期の遺構 | 9  |
| (4) 鎌倉時代の遺構      | 9  |
| (5) 室町時代の遺構      | 12 |
| (6) 江戸時代の遺構      | 12 |
| (7) 近代の遺構        | 12 |
| 4. 遺 物           | 14 |
| (1) 遺物の概要        | 14 |
| (2) 土器類          | 14 |
| (3) その他の遺物       | 16 |
| 5. ま と め         | 17 |

# 図 版 目 次

|        |   |                    |
|--------|---|--------------------|
| 図版1 遺構 | 1 | 1区全景（北から）          |
|        | 2 | 2区全景（北から）          |
| 図版2 遺構 | 1 | 1区溝10（北西から）        |
|        | 2 | 1区柵1・溝6（北から）       |
|        | 3 | 2区溝10（北から）         |
|        | 4 | 2区柵2・溝6（北から）       |
| 図版3 遺構 | 1 | ピット41遺物出土状況（西から）   |
|        | 2 | 柵2柱穴121遺物出土状況（東から） |
|        | 3 | ピット51検出状況（南東から）    |

- 4 ピット51半裁状況（東から）
- 5 土坑250遺物出土状況（南から）

図版4 遺物 出土遺物

## 挿 図 目 次

|     |                           |    |
|-----|---------------------------|----|
| 図1  | 今回調査地と周辺調査地位置図（1：5,000）   | 1  |
| 図2  | 調査区配置図（1：1,000）           | 2  |
| 図3  | 調査前全景（北から）                | 3  |
| 図4  | 重機掘削状況（南西から）              | 3  |
| 図5  | 作業風景（北西から）                | 3  |
| 図6  | 小学生発掘調査見学（北から）            | 3  |
| 図7  | 小学生遺物洗浄体験（北から）            | 3  |
| 図8  | 重機による埋め戻し状況（南西から）         | 3  |
| 図9  | ローラーによる埋め戻し状況（北西から）       | 3  |
| 図10 | 調査後全景（北から）                | 3  |
| 図11 | 調査区南壁・東壁断面図（1：80）         | 7  |
| 図12 | 調査区平面図（1：100）             | 8  |
| 図13 | 土坑250・251実測図（1：50）        | 10 |
| 図14 | ピット28・41・51実測図（1：40）      | 10 |
| 図15 | 柵1・2実測図（1：50）             | 11 |
| 図16 | 溝10断面図（1：40）              | 12 |
| 図17 | 建物1実測図（1：50）              | 13 |
| 図18 | 土器実測図（1：4）                | 15 |
| 図19 | 瓦拓影及び実測図（1：4）、石製品実測図（1：2） | 16 |

## 表 目 次

|    |       |    |
|----|-------|----|
| 表1 | 遺構概要表 | 6  |
| 表2 | 遺物概要表 | 14 |



# 平安京右京四條三坊三町跡

## 1. 調査の契機と経過 (図1～10)

本調査は、京都市立西院小学校整備工事に係る仮設校舎設置工事に伴う発掘調査である。調査地は京都市右京区西院春日町3番地1他に所在し、平安京右京四條三坊三町跡にあたる。

工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」とする）が試掘調査を行った結果、平安時代から鎌倉時代の遺構を確認した。そのため、文化財保護課は京都市教育委員会に対して埋蔵文化財調査の実施を指導し、調査が行われることとなった。調査は委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

今回の調査では、試掘調査や既往の周辺調査の成果により、平安時代から鎌倉時代の遺構や遺物の検出を主な目的とした。

調査区は、文化財保護課の指導により東西8m、南北25mに設定した。面積は200㎡である。排土置き場の関係から、調査区南半（1区）を調査した後に、調査区北半（2区）の調査を行った。

2019年6月17日より重機や機材の搬入を行い、調査区を設定した後、文化財保護課の臨検を受

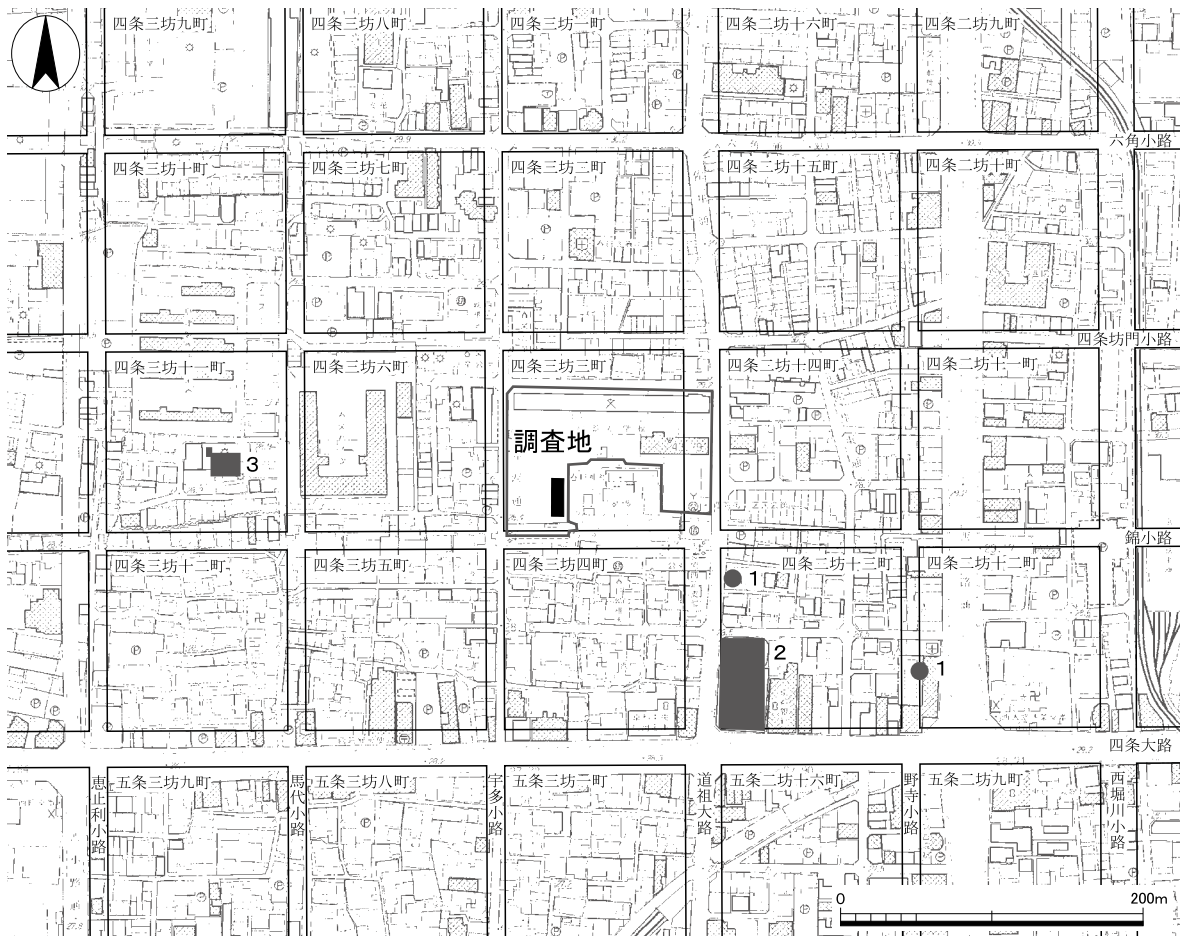


図1 今回調査地と周辺調査地位置図 (1 : 5,000)

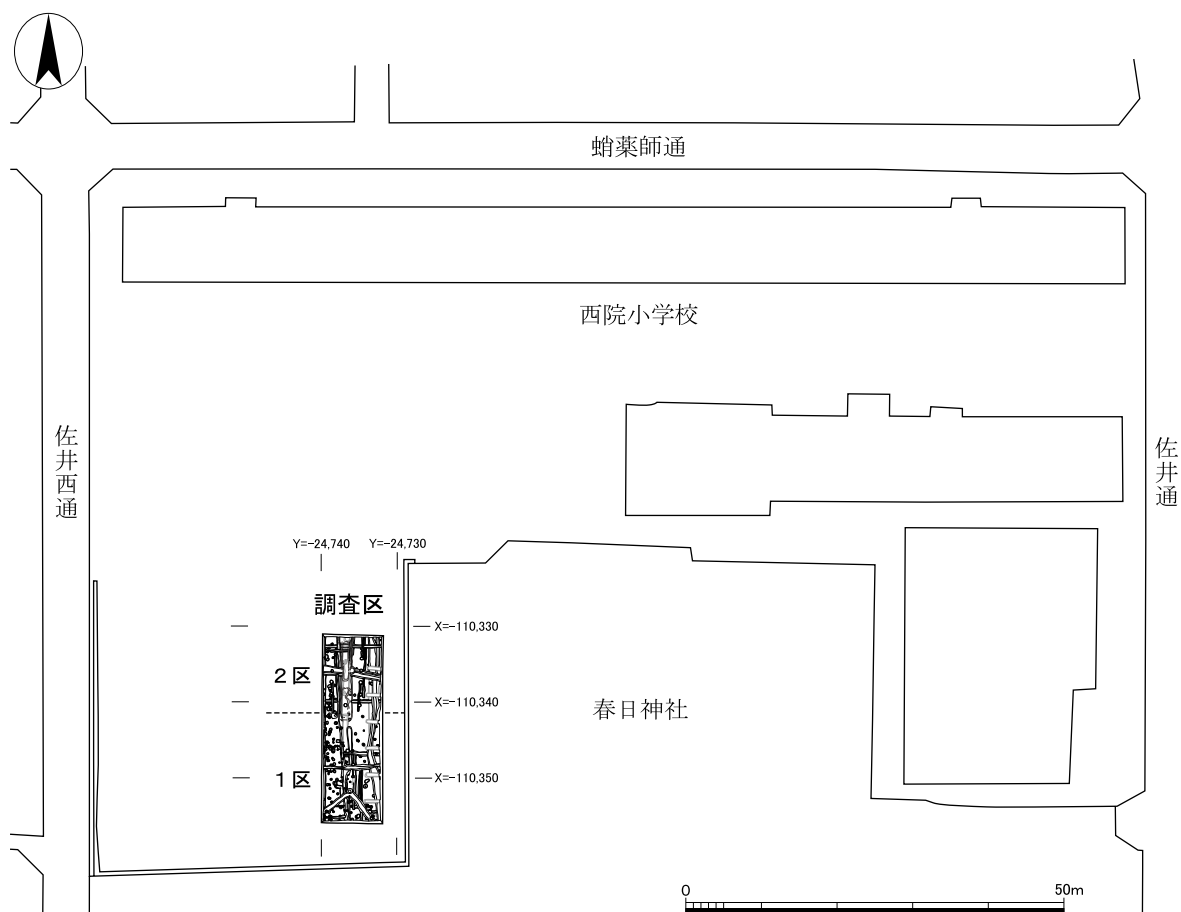


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

け、重機掘削を開始した。盛土や耕作土は重機を用いて掘削し、中世の耕作土の下面で基盤層となる粘土層を確認した。この層の上面で、平安時代から近代の素掘り溝や土坑・ピットなどの遺構を検出し、1区の全景写真、遺構の個別写真の撮影を行った。1区の調査・重機による埋め戻しが終了した後、2区の重機掘削を開始した。1区と同様に2区の遺構を掘削し、全景写真、遺構の個別写真の撮影を行った。調査で検出した遺構はすべて人力で掘削を行い、検出した遺構や土層断面は、図面や写真などの記録をとった。調査終了後、重機とローラーによる埋め戻しを行い、最上面に真砂土を入れて、表面に砂を撒き、再び運動場として使用できる状態にして、8月9日にすべての調査を終了した。

なお、普及啓発活動の一環として、7月5日に西院小学校6年生及び特別支援学級の児童による発掘調査の見学、7月22・23日に西院小学校6年生による遺物洗浄体験を行った。



図3 調査前全景（北から）



図4 重機掘削状況（南西から）



図5 作業風景（北西から）



図6 小学生発掘調査見学（北から）



図7 小学生遺物洗浄体験（北から）



図8 重機による埋め戻し状況（南西から）



図9 ローラーによる埋め戻し状況（北西から）



図10 調査後全景（北から）

## 2. 調査地の位置と環境

### (1) 歴史的環境

調査地は、延暦13年(794)に長岡京から平安京へ都が遷ると平安京城となった。当地は北を四条坊門小路、南を錦小路、東を道祖大路、西を宇多小路に囲まれた平安京右京四条三坊三町の南西部にあたる。

まず文献史料から、平安時代以降の調査地周辺の様相を以下に記す。なお、平安時代に関しては、特に記さない限り『拾芥抄』に拠る。

調査地の位置する平安京右京四条三坊三町は、『拾芥抄』西京圖によると平安京内最大の荘園である小泉荘の一部であった。小泉荘は平安時代中期以降に経営され、その範囲は右京四条二～四坊、同五条一～四坊、同六条二～四坊内に計57町広がっていた。とくに調査区周辺では、右京四条二坊九・十・十五・十六町、同四条三坊二～十一町が小泉荘とされる。また調査地の西北に位置する平安京右京四条三坊八町も小泉厩荘とされ、小泉荘と同様に荘園であった。

平安時代前期には、調査地の東に位置する平安京右京四条二坊十一～十四町の4町に、淳和天皇の離宮である淳和院が存在したと考えられている<sup>1)</sup>。また調査区南西に位置する平安京右京四条三坊十二町は淳和院の所領地であった。

平安時代中期には、調査区の北に位置する平安京右京四条三坊一町は藤原時家の所領であったことがわかる。平安時代後期には、平安京右京四条三坊九町は「同座主領」とされる。この「同座主」は天台座主であった大僧正良真のことで、住房が存在していたとみられる<sup>2)</sup>。調査区南西に位置する平安京右京五条三坊八町は、「前帥堂」・「邦恒堂」と記されるが、これらは同様の御堂とされる。前帥とは太宰権帥藤原季仲、邦恒はその外祖父である藤原邦恒のことで、邦恒はこの地に阿弥陀堂を建立した。

室町時代後期には、調査地の南には小泉氏の築いた西院小泉城が存在したと推定されている<sup>3)</sup>。西院小泉城は京都への西の入口付近に位置する重要な軍事拠点であった。

江戸時代以降、調査地周辺は農地となったようで、『京都府地誌』によると明治時代初期には西院村のほぼ半数が農業に従事していた。

明治6年には西院・山ノ内・西京・壬生・三条台・郡の各村の共同出資により第一区西院校(西院小学校)が開校した。『西院の歴史』によると土地は西院春日神社境内を譲り受け、元唐橋家と若狭屋敷の建物を移して使用された。昭和6年に小学校の運動場を拡大した際に、西院春日神社と西院小学校との土地境界や校舎・校庭の配置が現在とほぼ同じ位置となったようである。明治・大正時代においては、今回の調査地は西院春日神社の土地に含まれており、茶畑や社務所・還来神社が存在していた<sup>4)</sup>。なお西院春日神社は、『山州名跡志』における記述や例祭の神輿に「元禄十四年」(1701)・鋒に「宝永七年」(1710)の銘があることから18世紀初頭にはこの地に存在していたとみられる<sup>5)</sup>。

## (2) 周辺の調査 (図1)

次に考古学的な調査成果から、今回の調査地周辺の様相を以下に記す。

調査地周辺での発掘調査事例は極めて少ないが、淳和院の存在した平安京右京四条二坊十二・十三町では、これまでに2度の発掘調査が行われている。

昭和2年に行われた平安京右京四条二坊十二・十三町の発掘調査(図1-1)では、須恵器や軒丸瓦・軒平瓦などの遺物が出土した。これは平安京跡で初めて行われた考古学的な調査であった。<sup>6)</sup>

平成4年度に行われた平安京右京四条二坊十三町の発掘調査(図1-2)では、平安時代の掘立柱建物や門、井戸・道路、鑄造施設、区画溝などを検出した。報告によると、平安時代の遺構は「6段階」に分けることができ、このうち淳和院が存在していたのは「第2段階」で、大型建物や門・道路などの遺構が確認されている。<sup>7)</sup>

調査地の西に位置する平安京右京四条三坊十一町の発掘調査(図1-3)では、平安時代前期の掘立柱建物を5棟検出した。これらの建物は重複しており、2時期あると想定される。また鎌倉時代の区画溝とみられる溝、室町時代の耕作溝・柱穴、江戸時代の杭跡などを検出している。<sup>8)</sup>

### 註

- 1) 西田直二郎『京都史蹟の研究』吉川弘文館 1961年
- 2) 角田文衛編「左京と右京」『平安京提要』角川書店 1994年
- 3) 『京都府中世城館跡調査報告書 第三冊 -山城編1-』京都府教育委員会 2014年
- 4) 小澤嘉三「第二編 西院後記 第八章 西院教育史」『西院の歴史』西院の歴史編集委員会 1983年
- 5) 京都市歴史資料館の宇野日出生氏にご教示いただいた。
- 6) 西田直二郎・梅原末治・中村直勝『京都府史蹟勝地調査会報告 第8冊』京都府 1927年
- 7) 吉川義彦『淳和院跡発掘調査報告書 平安京右京四条二坊』関西文化財調査会 1997年
- 8) 近藤奈央『平安京右京四条三坊十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-1 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図11)

現地表面（標高29.1m）から70～80cmまでは、近現代の校庭を整備するための真砂土や透水層とみられる礫層（近現代盛土）が調査区全体に広がっており、以下、厚さ10～30cmの江戸時代の耕作土層（東壁第1・6層）、厚さ約10cmの鎌倉時代の耕作土層（東壁第17層）、厚さ約10cmの鎌倉時代の整地層（南壁第18層）、基盤層は粘土層（東壁第21層）となり、その検出は標高28.0～28.2m以下である。鎌倉時代の整地層（南壁第18層）は調査区西南隅の一部にのみ存在しており、この整地層の存在するところでは鎌倉時代の耕作土層は確認できなかった。今回の調査では、基盤層上面で平安時代から近代の遺構を検出した。

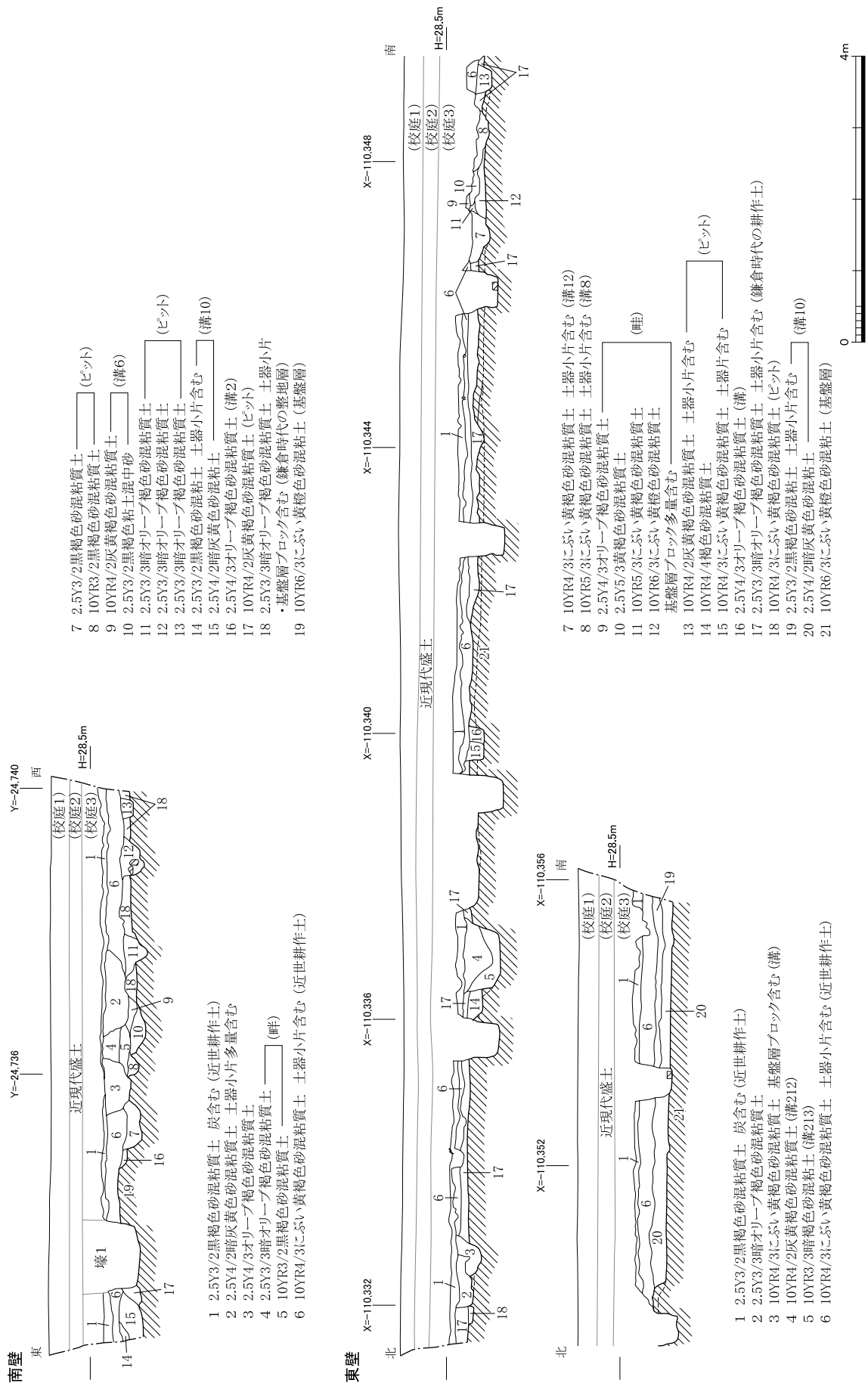
なお、最上面の近現代盛土は、西院小学校の校庭を整備した際に盛られた土で3時期に分けられる。現地表面から厚さ約30cmの校庭1、その下層に厚さ約20cmの校庭2、その下層に厚さ約30cmの校庭3を確認した。校庭1は現在の校庭、校庭3は昭和6年に校庭を拡大した際に整備された校庭とみられる。校庭2の整備時期は不明であるが、学校史によると昭和45年から木造校舎を鉄筋にする改築が行われており、その際に校庭もかさ上げした可能性が高い。

#### (2) 遺構の概要 (図12、表1)

基盤層上面で、平安時代前期・中期の土坑・ピット、鎌倉時代の柵・素掘り溝・耕作溝、室町時代の溝、江戸時代の建物、近代の壕を検出した。また、多数のピットを検出した。これらのピットからの出土遺物は少なく小片が多かったが、平安時代から鎌倉時代とみられる土器片を多く含むこと、鎌倉時代の整地土や耕作土を埋土とすることから、これらのピットの大半は鎌倉時代に属するものと推察される。

表1 遺構概要表

| 時 代       | 遺 構                   |
|-----------|-----------------------|
| 平安時代前期・中期 | 土坑250・251、ピット28・41・51 |
| 鎌倉時代      | 柵1・2、溝6・9～12          |
| 室町時代      | 溝8・212・213            |
| 江戸時代      | 建物1                   |
| 近代        | 壕1                    |



- 7 2.5Y3/2黒褐色砂混粘質土 (ピット)
- 8 10YR3/2黒褐色砂混粘質土 (溝6)
- 9 10YR4/2灰黄褐色砂混粘質土 (溝6)
- 10 2.5Y3/2黒褐色粘土混中砂 (ピット)
- 11 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘質土 (ピット)
- 12 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘質土 (溝10)
- 13 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘土 土器小片含む (溝10)
- 14 2.5Y3/2黒褐色砂混粘土 土器小片含む (溝10)
- 15 2.5Y4/2暗灰黄色砂混粘土 (溝2)
- 16 2.5Y4/3オリーブ褐色砂混粘質土 (ピット)
- 17 10YR4/2灰黄褐色砂混粘質土 土器小片・基盤層ブロック含む (鎌倉時代の整地層)
- 18 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘質土 土器小片
- 19 10YR6/3にぶい黄褐色砂混粘土 (基盤層)

- 1 2.5Y3/2黒褐色砂混粘質土 炭含む (近世耕作土)
- 2 2.5Y4/2暗灰黄色砂混粘質土 土器小片多量含む
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐色砂混粘質土 (畦)
- 4 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘質土
- 5 10YR3/2黒褐色砂混粘質土
- 6 10YR4/3にぶい黄褐色砂混粘質土 土器小片含む (近世耕作土)

- 7 10YR4/3にぶい黄褐色砂混粘質土 土器小片含む (溝12)
- 8 10YR5/3にぶい黄褐色砂混粘質土 土器小片含む (溝8)
- 9 2.5Y4/3オリーブ褐色砂混粘質土
- 10 2.5Y5/3黄褐色砂混粘質土 (畦)
- 11 10YR5/3にぶい黄褐色砂混粘質土
- 12 10YR6/3にぶい黄褐色砂混粘質土 基盤層ブロック多量含む
- 13 10YR4/2灰黄褐色砂混粘質土 土器小片含む (ピット)
- 14 10YR4/4褐色砂混粘質土 土器片含む
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色砂混粘質土 土器片含む
- 16 2.5Y4/3オリーブ褐色砂混粘質土 (溝)
- 17 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘質土 土器小片含む (鎌倉時代の耕作土)
- 18 10YR4/3にぶい黄褐色砂混粘質土 (ピット)
- 19 2.5Y3/2黒褐色砂混粘土 土器小片含む (溝10)
- 20 2.5Y4/2暗灰黄色砂混粘土
- 21 10YR6/3にぶい黄褐色砂混粘土 (基盤層)

- 1 2.5Y3/2黒褐色砂混粘質土 炭含む (近世耕作土)
- 2 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂混粘質土
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色砂混粘質土 基盤層ブロック含む (溝)
- 4 10YR4/2灰黄褐色砂混粘質土 (溝212)
- 5 10YR3/3暗褐色砂混粘土 (溝213)
- 6 10YR4/3にぶい黄褐色砂混粘質土 土器小片含む (近世耕作土)

図11 調査区南壁・東壁断面図 (1:80)



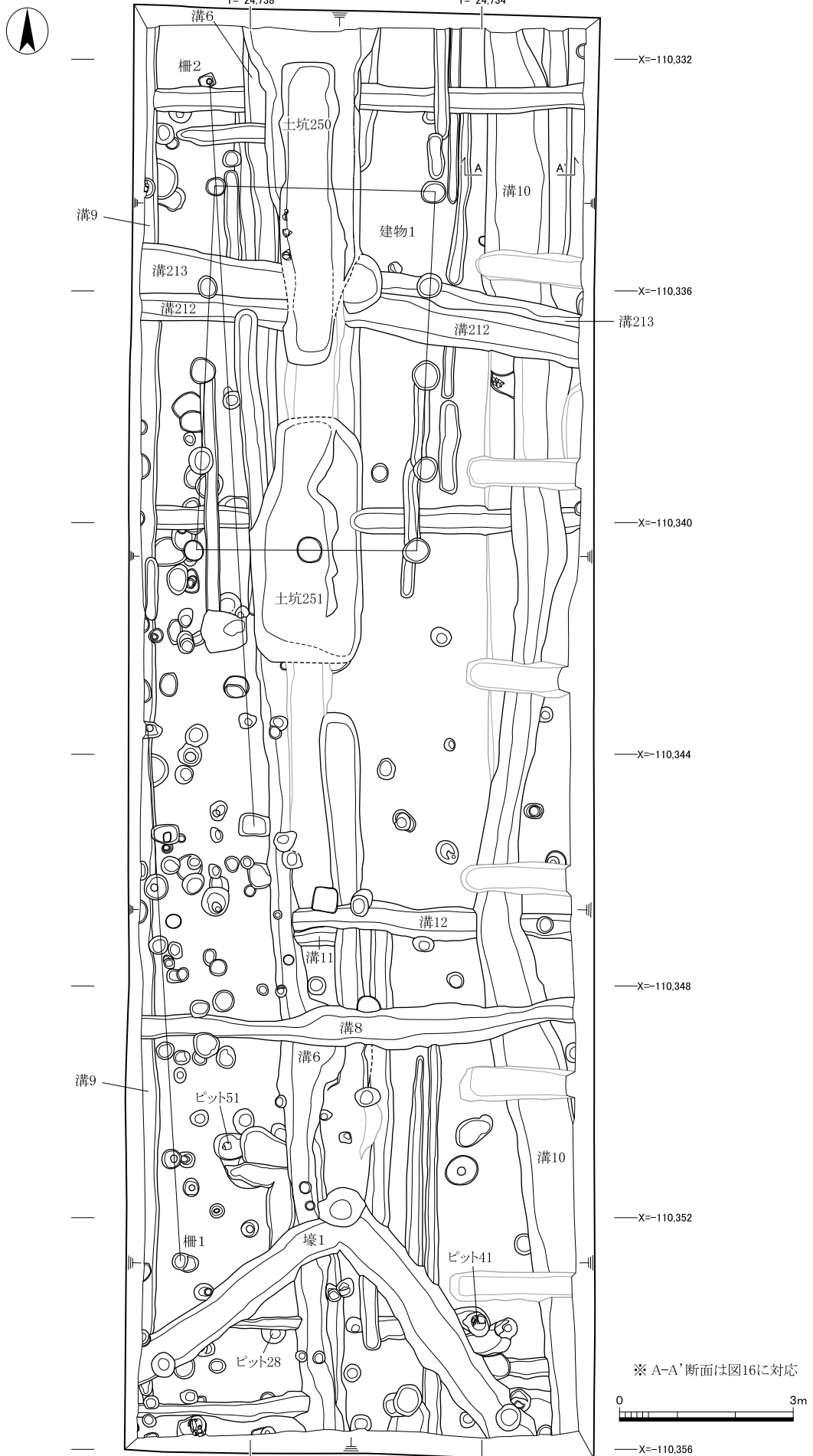


図12 調査区平面図 (1 : 100)



### (3) 平安時代前期・中期の遺構 (図12、図版1)

土坑250 (図13、図版3) 調査区北部で検出した南北に長い土坑である。東西2.2m、南北5.7m以上の不整楕円形で、深さは0.35mである。土坑は基盤層である粘土層を掘削し、粘土層の下層に存在する砂礫層上部を底面とすることから、粘土採掘のための土取り穴と考えられる。9世紀半ばの須恵器鉢や土師器甕、平瓦が出土した。

土坑251 (図13) 調査区中央で検出した南北に長い土坑である。東西1.7m、南北4.4mの不整楕円形で、深さは0.25mである。土坑250と同様に土坑の底面は砂礫層上部となり、粘土採掘のための土取り穴と考えられる。9世紀半ばの須恵器杯や平瓦が出土した。

ピット28 (図14) 調査区南西部で検出したピットである。東西0.45m、南北0.3mの円形で、深さは0.2mである。後世の素掘り溝と重複しているために、ピットの北半部は失われている。11世紀前半の土師器皿が出土した。

ピット41 (図14、図版3) 調査区南東部で検出したピットである。東西0.65m、南北0.5mの不整形で、深さは0.2mである。柱穴とみられ、柱痕跡が一段深く0.3mほどであった。柱痕跡からは平瓦を検出した。10世紀半ばの須恵器椀が出土した。

ピット51 (図14、図版3) 調査区南西部で検出したピットである。東西0.6m、南北0.5mの隅丸方形で、深さは0.15mである。掘形中央に東西16cm、南北12cmほどの扁平な石を置き、柱の根石としていた。遺物は出土していないが、平安時代末期から鎌倉時代の整地層や中世の耕作土層を埋土とする大半のピットとは異なり、基盤層である粘土のブロックを埋土に多く含んでいることから、平安時代前期・中期の遺構と考える。

### (4) 鎌倉時代の遺構 (図12、図版1)

柵1 (図15、図版2) 調査区南西部で検出した南北方向の柱穴列5間分である。柱穴掘形は直径0.3~0.4mの円形を呈し、深さは0.25~0.3m、柱間は1.8mである。北で西に4度ほど振れる。柵1は溝9と重複して検出したが、平面や土層断面の状況から、柵1は溝9より新しい。柱穴の埋土から13世紀初頭の土師器皿や瓦器椀・羽釜脚部が出土した。

柵2 (図15、図版2・3) 調査区北西部で検出した南北方向の柱穴列7間分である。柱穴掘形は直径約0.2~0.5mの円形または0.3~0.5mの隅丸方形を呈し、深さは0.15~0.3m、柱間は1.8mである。北で西に4度ほど振れる。柱穴121の柱痕跡の埋土には、13世紀前半の土師器皿が正位置で置かれていた。柱を抜き取った後に土師器皿を置き、埋め戻したようである。

溝6 (図版2) 調査区中央西寄りで検出した南北方向に縦断する溝である。溝の幅は0.4~0.8m、深さは0.05~0.2mである。北で西に3度ほど振れる。13世紀初頭の土師器皿や瓦器羽釜、滑石製紡錘車が出土した。

溝9 調査区西端で検出した南北方向に縦断する溝の東肩である。溝の西肩は調査区外に位置する。溝の幅は0.3m以上、深さは0.1mである。出土遺物は少なく、小片が多いが、12世紀後半か

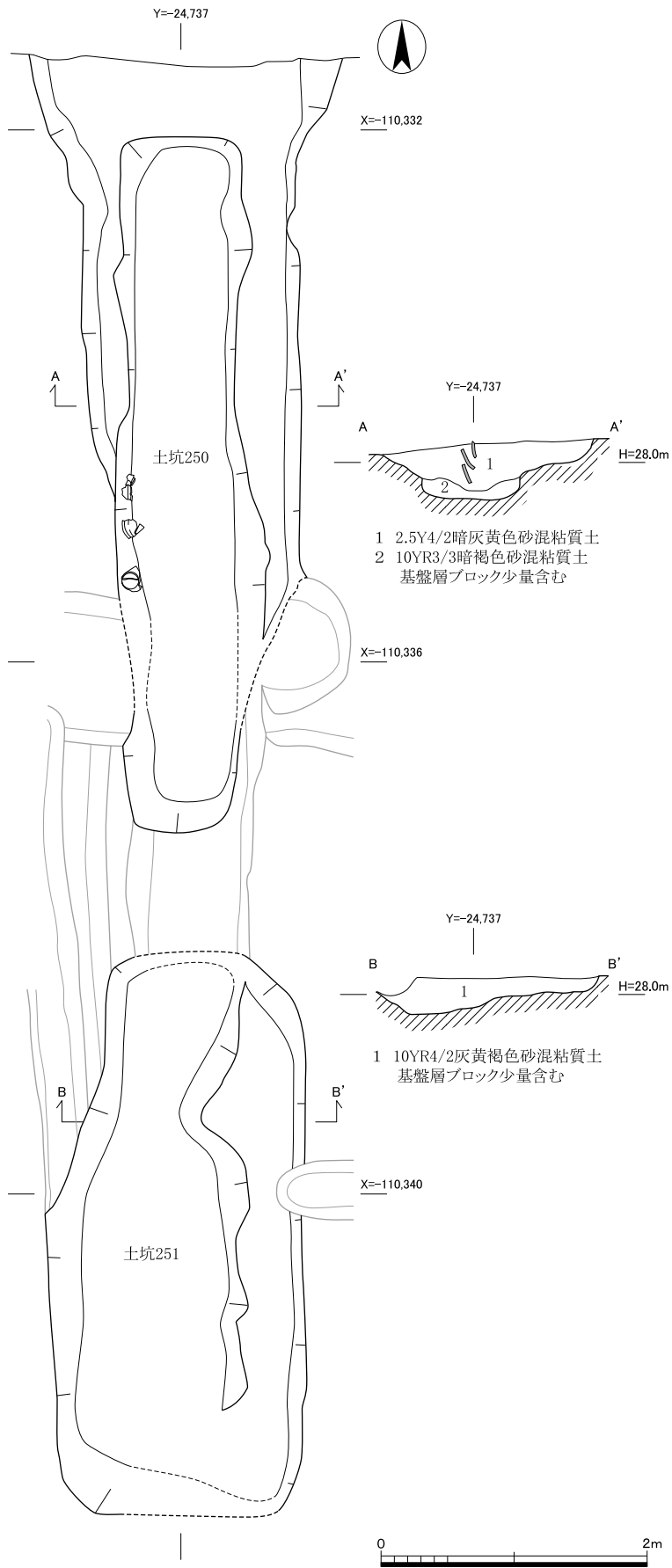
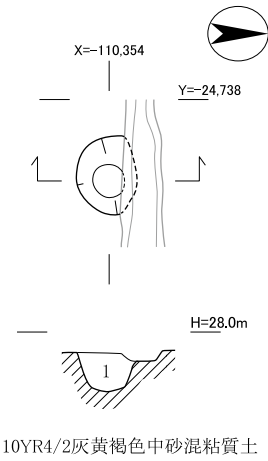
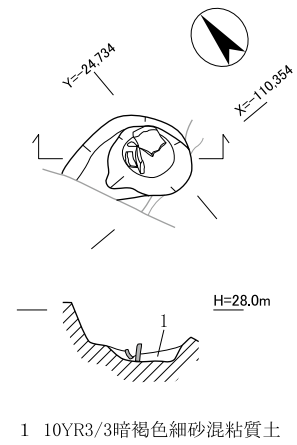


図13 土坑250・251実測図 (1 : 50)

ピット28



ピット41



ピット51

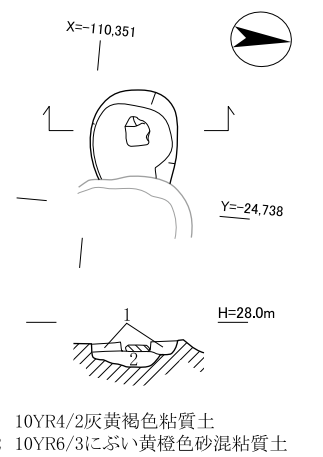


図14 ピット28・41・51実測図 (1 : 40)

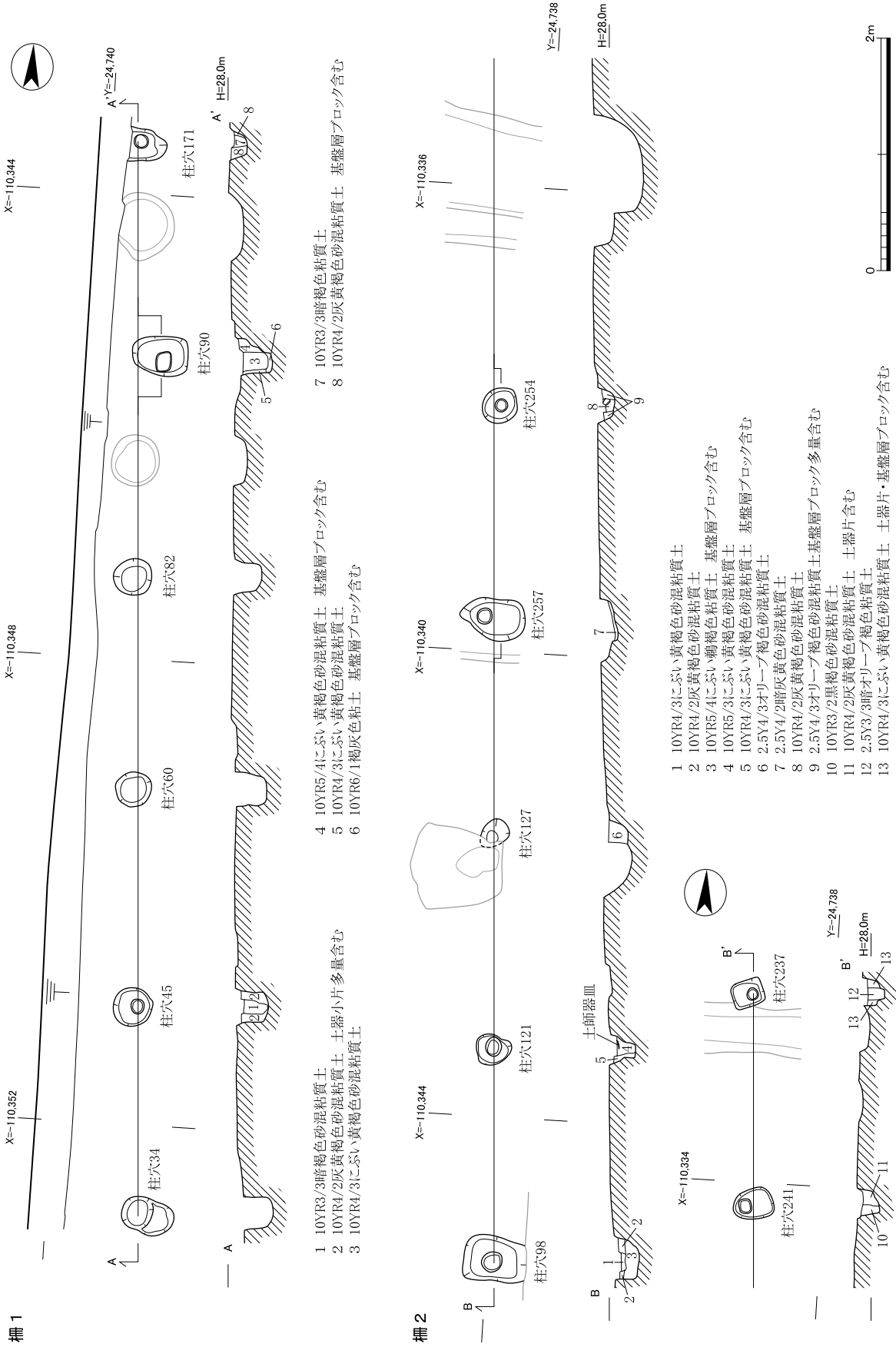
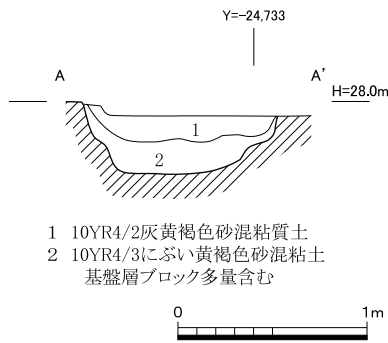


図15 冊1・2実測図 (1:50)



※ A-A'の位置は図12参照

図16 溝10断面図 (1 : 40)

ら13世紀前半の土師器皿などが出土した。

**溝10** (図16、図版2) 調査区東部で検出した南北方向に縦断する溝である。溝の幅は1.3m、深さは0.4mである。北で西に3度ほど振れており、やや蛇行する。出土遺物は少なく、小片が多いが、13世紀初頭の土師器皿や須恵器甕、輸入磁器、平瓦が出土した。

**溝11** 調査区中央で検出した東西溝である。溝の幅は0.5～0.8m、深さは0.1～0.2mである。検出状況から、溝11は溝6より古いことを確認した。9世紀半ばの須恵器壺蓋が出土した。

埋土の状況から、溝11は鎌倉時代の溝とみられることから、この遺物は混入品といえる。

**溝12** 調査区中央で検出した東西溝である。溝の幅は0.55m、深さは0.1mである。溝6西側では確認できていないことから、溝6とT字状に合流していたようである。出土遺物は少なく、時期は不明であるが、溝6との関係から同時期に存在していたとみられる。

**耕作溝** 調査区の主に北部と南部で耕作に伴う素掘り小溝を多数検出した。これらの耕作溝は出土遺物から鎌倉時代から室町時代のものとみられる。

#### (5) 室町時代の遺構 (図12、図版1)

**溝8** 調査区中央で検出した東西方向に横断する溝である。溝の幅は0.7m、深さは0.2mである。出土遺物は少なく、小片が多いが、室町時代の土師器皿や瓦器椀・火鉢などが出土した。

**溝213** 調査区北部で検出した東西方向に横断する溝である。溝の幅は0.9m、深さは0.45mである。出土遺物は少なく、小片が多いが、14世紀前半の土師器皿などが出土した。

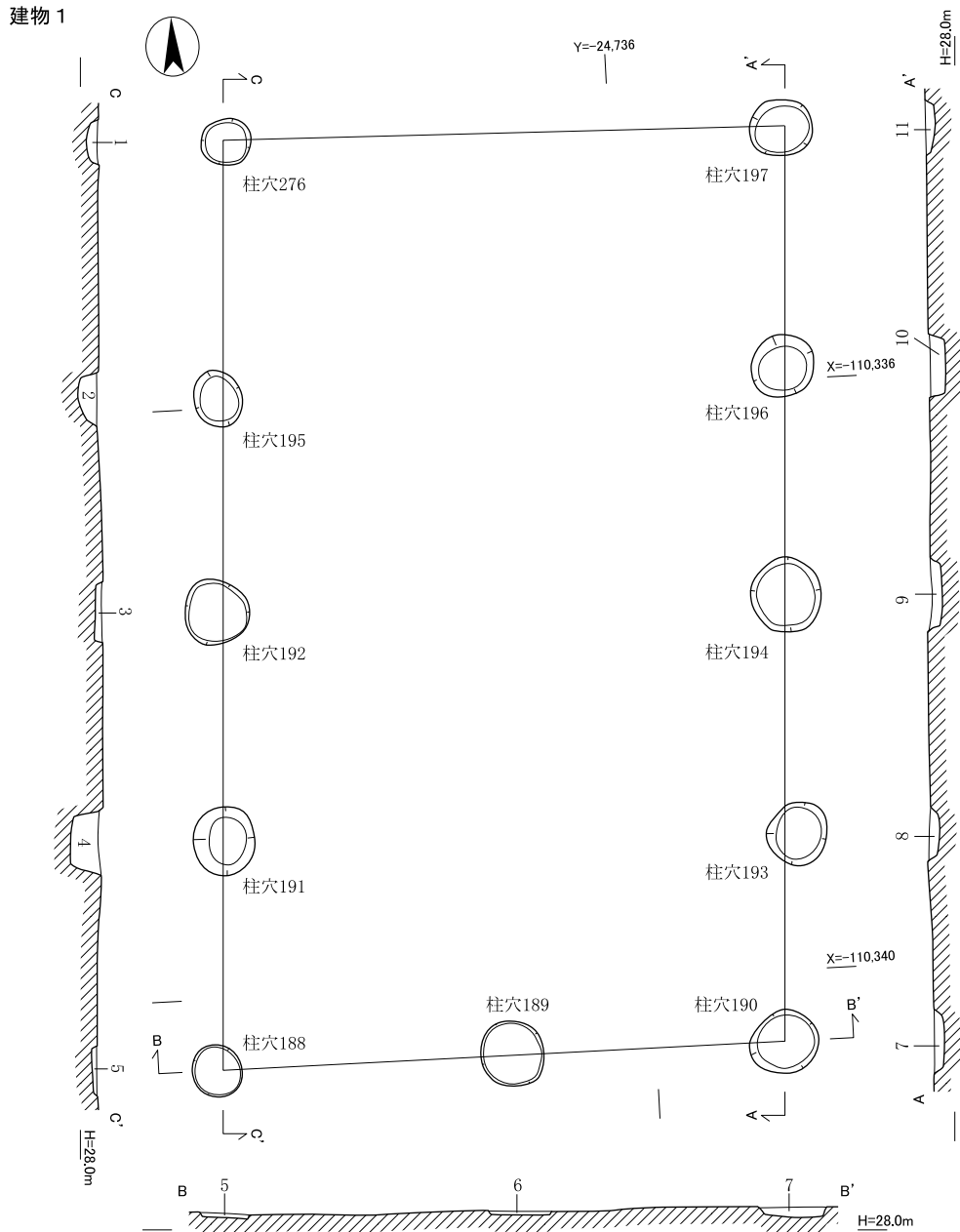
**溝212** 調査区北部で検出した東西方向に横断する溝である。溝の幅は0.7m、深さは0.2mである。溝212は溝213と重複して検出したが、平面や土層断面の状況から、溝212は溝213より新しい。これらの溝は、ほぼ同一位置に存在することから、溝212は埋没しつつあった溝213を再び掘りなおしたものとみられる。出土遺物は少なく、須恵器の小片などが出土した。

#### (6) 江戸時代の遺構 (図12、図版1)

**建物1** (図17) 調査区北側で検出した東西2間、南北4間の掘立柱建物である柱穴掘形は直径0.35～0.45mの円形を呈し、深さは0.03～0.1m、柱間は東西1.9～2.0m、南北1.5～1.6mであるが建物最南端の柱間のみ1.3～1.4mと短い。また、建物北辺中央の柱穴は確認できなかった。18世紀後半の施釉陶器土瓶、堺産焼締陶器播鉢などが出土した。

#### (7) 近代の遺構 (図12、図版1)

**壕1** 調査区南端で平面形が逆V字形を呈する壕を検出した。検出面における壕の幅は0.65～0.9m、深さは0.1～0.3mである。調査区南壁の断面観察により、本来の壕の幅は1.0m、深さは0.8



- |                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 10YR3/2黒褐色中砂 炭少量含む  | 7 2.5Y4/2暗灰黄色細砂混粘質土           |
| 2 10YR3/2黒褐色粘質土       | 8 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土 土器片少量含む      |
| 3 2.5Y4/1黄灰色中砂混粘質土    | 9 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土              |
| 4 2.5Y4/2暗灰黄色細砂混粘質土   | 10 10YR3/2黒褐色細砂混粘質土 土器片・炭少量含む |
| 5 10YR4/2灰黄褐色粘質土      | 11 10YR4/2灰黄褐色細砂混粘質土          |
| 6 10YR4/3にぶい黄褐色細砂混粘質土 |                               |



図17 建物1実測図 (1 : 50)

mであることがわかる。V字形屈曲部は土坑状のくぼみとなっている。このくぼみは直径0.8mの円形を呈し、壕底部よりも0.25mほど深い。この壕は、戦中から戦後にかけての軍事教練の一環として掘削された散兵壕の一部とみられる。

## 4. 遺 物

### (1) 遺物の概要 (表2)

遺物整理コンテナ11箱分の遺物が出土した。土器・瓦類が大半で、石製品をわずかに含む。周辺調査と比較して遺物出土量は少なく、出土した土器も磨滅した小片が多いため、図示できる遺物は極めて少ない。

平安時代前期・中期の遺物は、土坑250・251やピット28・41・51から土師器、須恵器が出土した。また、溝11などの鎌倉時代から室町時代にかけての遺構からも、平安時代前期・中期の土師器、須恵器、緑釉陶器などが出土している。鎌倉時代の遺物は、柵1・2、溝6・9・10から土師器、須恵器、瓦器、輸入磁器、瓦、滑石製品などが出土した。室町時代の遺物は、溝8・212・213から土師器、瓦器、焼締陶器、瓦などが出土した。江戸時代後期の遺物は、建物1から施釉陶器、焼締陶器、棧瓦などが出土した。

なお、出土土器の分類及び年代は、平安京・京都I期～XIV期の編年案<sup>1)</sup>に拠る。

### (2) 土器類 (図18)

1～4は土師器皿。1は土師器皿N。残存高1.3cm。色調はにぶい橙色で、胎土に1mm以下の赤色砂粒と雲母片を少量含む。溝6から出土した。平安京VI期古段階である。2は土師器皿N。残存高2.5cm。色調は灰白色で、胎土に1mm以下の白色砂粒を少量含む。溝9から出土した。平安京V期新段階に属する。3は土師器皿A。口径10.9cm、高さ1.3cm。調整は口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外面は磨滅が著しく不明である。平坦な底部から口縁部は屈曲してひらき、端部は立ち上がる。色調は灰白色で、胎土に1mm以下の白色砂粒と黒色砂粒を多く含む。ピット28から出土した。平安京IV期古段階に属する。4は土師器皿Ac。口径9.0cm、高さ1.3cm。口縁部は立ち上がり、端部がわ

表2 遺物概要表

| 時 代       | 内 容                        | コンテナ箱数 | Aランク点数                 | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|-----------|----------------------------|--------|------------------------|--------|--------|
| 平安時代前期・中期 | 土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦   |        | 土師器2点、須恵器3点、灰釉陶器1点、瓦1点 |        |        |
| 鎌倉時代      | 土師器、須恵器、瓦器、輸入磁器、灰釉陶器、瓦、石製品 |        | 土師器3点、石製品1点            |        |        |
| 室町時代      | 土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、瓦     |        |                        |        |        |
| 江戸時代      | 土師器、焼締陶器、施釉陶器、瓦            |        |                        |        |        |
| 合 計       |                            | 12箱    | 11点 (1箱)               | 0箱     | 11箱    |

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。



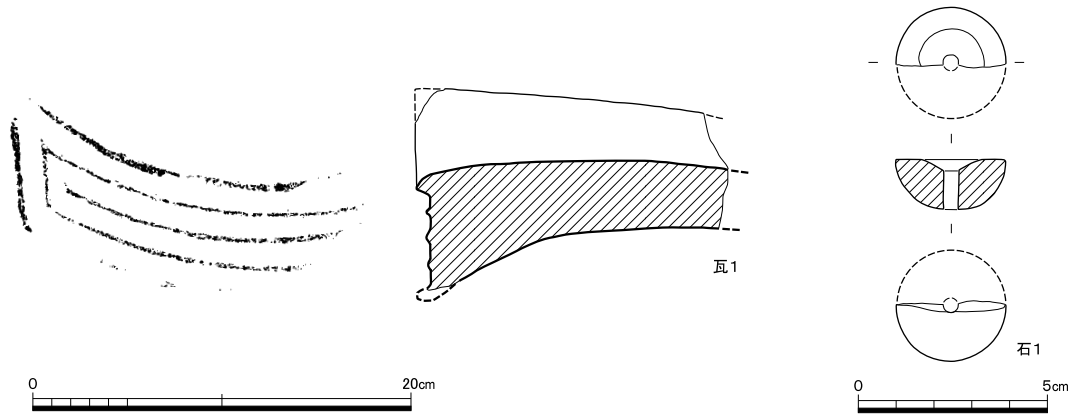


図19 瓦拓影及び実測図（1：4）、石製品実測図（1：2）

### （3）その他の遺物（図19）

#### 瓦

瓦1は重郭文軒平瓦。残存長16.5cm、幅20.5cm。郭内に弧線を配す。曲線顎。調整は凹面と顎部ナデ、凸面は縄タタキの痕跡が残る。色調は灰色で、胎土に1mm以下の黒色砂粒と褐色砂粒を多く含む。現代の攪乱から出土した。

#### 石製品

石1は滑石製品を転用して作られた紡錘車とみられる。直径2.8cm、高さ1.3cm。半球体の滑石中央に径0.3～0.4cmの円を穿つ。色調は黄灰色である。溝6から出土した。

#### 註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

| 750頃 | 840頃 | 930頃 | 1010頃 | 1080～90頃 | 1180頃 | 1270頃 | 1360頃 | 1440頃 | 1500頃 | 1580～90頃 | 1660頃 | 1740年代頃 | 1820年代頃 |
|------|------|------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|---------|---------|
| I    | II   | III  | IV    | V        | VI    | VII   | VIII  | IX    | X     | XI       | XII   | XIII    | XIV     |
| 古中   | 古中   | 古中   | 古中    | 古中       | 古中    | 古中    | 古中    | 古中    | 古中    | 古中       | 古中    | 古中      | 古中      |
| 新    | 新    | 新    | 新     | 新        | 新     | 新     | 新     | 新     | 新     | 新        | 新     | 新       | 新       |



## 5. まとめ

今回の調査で検出した遺構は、出土遺物から平安時代前期・中期、鎌倉時代、室町時代、江戸時代、近代の5時期に分けることができる。以下に、各時期の遺構の変遷をまとめる。

### 今回の調査区における歴史の変遷

**平安時代前期・中期** 調査区北部で南北に長い土坑を2基（土坑250・251）やピット（ピット28・41・51）を検出した。土坑250・251は良質な粘土を採取するための土取り穴とみられる。この時期の建物は検出できなかったものの、柱穴とみられるピット（ピット28・41・51）の存在、後世の遺構から平安時代前期・中期の遺物が確認できることから、この時期に何らかの土地利用をしていたとみられる。

**鎌倉時代** 調査区を縦断する溝（溝6・9・10）や素掘り溝（溝11）、南北柵（柵1・2）などを検出した。また今回の調査で多数検出したピットの大半もこの時期に属するとみられる。これらのピットは、溝6より東側ではあまり存在しないが、西側では多く検出した。さらに溝6の西側には柵1や柵2などの南北に伸びる遮蔽施設も確認できた。そのため、区画溝とみられる溝6を境にピットを多く検出した西側と遺構密度の低い東側とでは土地利用の性格が異なると考えられる。

また、これらの遺構（溝6・10、柵1・2）は北で西に3～4度振れており、正方位を基本とした平安京条坊とは異なった方位をもつ。このことから、調査地では、鎌倉時代に条坊方位とは異なる方位の地割が行われたと考えられる。

**室町時代** 調査区を横断する東西溝（溝8・212・213）を検出した。これらの溝はいずれも鎌倉時代の区画溝とみられる溝6や遮蔽施設である柵1・2を横断している。したがって、室町時代になると土地利用に何らかの変化が生じたと想定できる。

**江戸時代** 南北建物を1棟（建物1）検出した。この建物は、出土遺物から18世紀後半の建物とみられる。この時期の調査地は西院春日神社の境内とされることから、建物1は神社の関連施設であったと推察する。

**近代** 調査区南端で壕1を検出した。調査地は前述の通り、昭和初期に西院春日神社の境内から西院小学校校庭の一部となっている。そのため、壕1は西院小学校校庭の南東隅に掘削された教練用の散兵壕と考えられる<sup>1)</sup>。大正時代末期頃から行われた軍事教練の一端を知ることのできる貴重な遺構である。

### 註

- 1) このような散兵壕は京都市南区の学校法人真言宗京都学園 洛南高等学校の校庭で行われた発掘調査でも検出している。報告書に遺構の記述はないが、報告書の図版25・26には鋸歯形の溝が2本平行して掘削されていることを確認できる。（吉崎 伸ほか『東寺（教王護国寺）旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-7 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年）



# 圖 版





1 1区全景（北から）



2 2区全景（北から）



1 1区溝10 (北西から)



2 1区柵1・溝6 (北から)



3 2区溝10 (北から)



4 2区柵2・溝6 (北から)



1 ピット41遺物出土状況（西から）



2 柵2柱穴121遺物出土状況（東から）



3 ピット51検出状況（南東から）



4 ピット51半裁状況（東から）



5 土坑250遺物出土状況（南から）







# 報 告 書 抄 録

| ふりがな              | へいあんきょううきょうしじょうさんぼうさんちょうあと                                |               |        |                                    |                    |  |      |              |
|-------------------|---|---------------|--------|------------------------------------|--------------------|--|------|--------------|
| 書名                | 平安京右京四条三坊三町跡  |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| シリーズ名             | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告   |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| シリーズ番号            | 2019-5  |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| 編著者名              | 松吉祐希  |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| 編集機関              | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| 所在地               | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1                                 |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| 発行所               | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| 発行年月日             | 西暦2019年12月27日   |               |        |                                    |                    |  |      |              |
| ふりがな<br>所収遺跡名     | ふりがな<br>所在地   | コード           |        | 北緯                                 | 東経                 | 調査期間   | 調査面積 | 調査原因         |
|                   |   | 市町村           | 遺跡番号   |                                    |                    |  |      |              |
| へいあんきょうあと<br>平安京跡 | きょうとうしきょうく<br>京都市右京区<br>さいいんかやがちょう<br>西院春日町<br><br>3番地1ほか | 26100         | 1      | 35度<br>00分<br>18秒                  | 135度<br>43分<br>44秒 | 2019年6月<br>17日～2019<br>年8月9日                 | 200㎡ | 仮設校舎<br>設置工事 |
| 所収遺跡名             | 種別  | 主な時代          | 主な遺構   | 主な遺物                               |                    | 特記事項   |      |              |
| 平安京跡              | 都城跡   | 平安時代前期<br>・中期 | 土坑、ピット | 土師器、須恵器、黒色<br>土器、灰釉陶器、緑釉<br>陶器、瓦   |                    | 平安京条坊とは異<br>なる方位の振れを<br>もつ鎌倉時代の柵<br>や溝を検出した。 |      |              |
|                   |   | 鎌倉時代          | 柵、溝    | 土師器、須恵器、瓦器、<br>輸入磁器、灰釉陶器、<br>瓦、石製品 |                    |  |      |              |
|                   |   | 室町時代          | 溝      | 土師器、須恵器、瓦器、<br>焼締陶器、施釉陶器、<br>瓦     |                    |  |      |              |
|                   |   | 江戸時代          | 建物     | 土師器、焼締陶器、施<br>釉陶器、瓦                |                    |  |      |              |
|                   |   | 近代            | 壕      |                                    |                    |  |      |              |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2019-5

## 平安京右京四条三坊三町跡

発行日 2019年12月27日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961